

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	1-4-1		事業名	IT関連人材育成拠点の整備
担当	経済局産業振興部産業企画課 渡邊 211-2379			
全体計画（当初）				
事業内容	札幌市におけるIT産業振興の、より一層の強化策として、即戦力となる高度IT人材の育成及びアジアのIT企業との連携ならびに札幌進出の拠点を整備する。事業の実施にあたっては、札幌市のIT産業振興施策の拠点である「札幌テクノパーク」及びその中核施設である「札幌市エレクトロニクスセンター」の機能再活性化策を中心課題とする。 (具体的な事業内容) 札幌市エレクトロニクスセンターを即戦型高度IT人材育成拠点として再整備する。 アジア等の海外IT関連企業との連携を強化するため、札幌市IT産業国際情報スペースを設置する。 アジア等の海外IT関連企業の札幌誘致を積極的に進めるため、スタートアップルームを開設する。 地元IT関連企業の連携を促進するため、JVによる受注の仕組みを構築する。		＜年度別の事業内容＞	
			<p>平成16年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッポロバレー・ステップアップ・ビジョンの策定 ・札幌市IT産業国際スペース(コミュニケーションスペース、展示スペース、スタートアップオフィス)の設置 <p>平成17年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日韓共同製品開発による試作品制作 ・アジアIT企業とのビジネスマッチングコーディネーターの配置 <p>平成18年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市エレクトロニクスセンターの機能改修 ・高度IT人材育成機関設置に関する研究事業の実施 ・アジアIT企業とのビジネスマッチングコーディネーターの配置 	
事業内容(量・場所・規模等)	平成16年度事業内容(決算)		平成17年度事業内容(決算)	
	<p>サッポロバレー・ステップアップ事業</p> <p>サッポロバレーの現状・課題及びサッポロバレーを取り巻く環境動向を把握・分析した上で、サッポロバレーが競争力を回復し、一層の飛躍を図るため、今後目指すべき方向性とそれを実現するための方策を立案し、「サッポロバレー・ステップアップ・ビジョン」を策定した。</p> <p>札幌市IT産業国際スペースの設置</p> <p>韓国を中心としたアジアのIT関連企業の誘致を積極的に行うため以下3点から構成される「札幌市IT産業国際スペース」を札幌市エレクトロニクスセンター内に設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスペース 海外とのTV会議、相互プレゼンテーション、プレゼンデータのアーカイブを実現するスペース(PAO) ・展示スペース 海外企業の技術・製品の常設展示スペース ・スタートアップオフィス <p>札幌に進出する海外企業向けに、無料のオフィススペース</p>		<p>サッポロバレー・ステップアップ事業</p> <p>平成16年度に策定した「サッポロバレー・ステップアップ・ビジョン」に基づき、札幌市内のIT企業が競争力を持ち、継続的な発展に資する事業を実施する。</p> <p>具体的には、札幌市エレクトロニクスセンター内に開設した「札幌市IT産業国際スペース」に設置のコミュニケーションスペース(PAO)をフィールドとして、札幌の組込技術と大田市企業の持つ技術マッチングによる共同製品を開発し、成功モデルを提示する。</p> <p>IT関連産業国際化事業</p> <p>札幌のIT企業とアジアのIT企業のビジネスアライアンスを促進し、市内のIT産業の国際化を図り、首都圏やアジア圏での販路拡大を支援するため、ビジネスマッチングコーディネーターを配置する。</p>	
事業内容(量・場所・規模等)	平成18年度事業内容(決算)		評価(成果)	
	<p>高度情報通信人材育成・活用事業</p> <p>(1) 人材育成・活用センター事業</p> <p>高度人材、即戦力型人材等を3年間で600名育てる。さらにその人材に各スポンサー企業が中心となるワークショップ等の実経験を積ませることにより更なる高度人材へと育成していく。</p> <p>(2) 企業情報提供センター事業</p> <p>人材育成・活用事業によって育成した人材並びに市内IT技術者の技術水準の認証・登録を行い、またその情報を首都圏等の発注側企業に対して提供すると共にプロモーションを実施する。</p> <p>(3) IT関連産業国際化事業</p> <p>人材の高度化を行うことにより、より上流工程の作業に注力することが出来、首都圏等からの仕事は札幌の企業がアジア企業を活用しながら開発するという構図が明確化するため、市内企業からアジア圏へのプログラム委託開発先の調査と提携支援、データエントリー事業の国際化支援とアジア展開モデルの調査検討、札幌市立大学の国際共同開発プロジェクトの企画調整および国内外研究機関・企業との連携促進等を実施することにより、具体的に企業間連携が促進する仕組みを構築する。</p>		<p>札幌のIT産業振興の今後の方向性として、サッポロバレー・ステップアップ・ビジョンを作成し、1高度情報通信人材の育成、2海外企業との連携、3企業連携による受注開発の仕組み作りという3つの課題を抽出し、18年度から「高度情報通信人材育成・活用事業」として事業化を図った。</p>	
課題				
<ul style="list-style-type: none"> ・企業情報提供センターの本格稼働を19年8月に予定している。当該センターへ確かな技術力に裏づけされた市内IT企業を多数登録させると共に当該センターの存在を道内外に広く周知する必要がある。 ・IT関連産業国際化事業については、中国等アジア諸国を安い労働力の提供元としてだけでなく、市場とみなし、本市IT企業の技術・製品の販売先の開拓・拡大を実施して行く必要がある。 				
19年度以降の方向性(事業予定)				
<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成・活用センター事業については、技術者に対して更なる高度な内容の教育を実施すると共により多くの人材に対する教育を実施する。 ・DEOS(北海道ソフトウェア技術開発機構)やIT技術者養成を行う市内の民間教育機関への機能移管を進めるべく検討・調整を行う。 ・現在、厚生労働省の採択を受けて実施している、初級IT技術者を育成し就業に結びつけることを目的としたパッケージ事業が平成19年度で終了することから、この事業との関連性の強化について検討する。 ・企業情報提供センターについては、首都圏等から受注に耐えうる企業力・技術力を有する企業の診断・登録を促進すると共に、当センターを活用した首都圏等発注先企業とのマッチングの仕組みや市内IT企業同士の共同受注の仕組みを構築する。 ・人材育成・活用センターと企業情報提供センターの連携をより密にすることにより、「売れる技術力」を所有する企業を創 				

新まちづくり計画 (H16 ~ 18) 事業総括調書 (単位:千円)

施策体系コード	1-4-1			事業名	IT関連人材育成拠点の整備
---------	-------	--	--	-----	---------------

事業費の推移

項目		16年度	17年度	18年度	計	進捗率(%)
計画	事業費				0	-
	財源内訳					
	国・道支出金				0	-
	市債				0	-
	その他 一般財源	0	0	0	0	-
実績	事業費	8,000	11,000	54,605	73,605	
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0	0	0	-
	市債	0	0	0	0	-
	その他 一般財源	0	0	0	0	-

計画との差異 (予算・事業内容・規模・時期等)

[全体][16年度][17年度][18年度]

主な施設、サービス等の整備水準

項目	15年度末 (現状)	16年度末 (実績)	17年度末 (実績)	18年度末 (実績)	18年度末 (目標)

関連予算事業内訳

予算事業名(小事業名)	経・臨	枠内外	16年度	17年度	18年度	計
サッポロバレー・ステップアップ事業	臨時	枠内	8,000	5,000		13,000
IT関連産業国際化事業	臨時	枠外		6,000		6,000
高度情報通信人材育成・活用事業	臨時	枠外			54,605	54,605
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
						0
計			8,000	11,000	54,605	73,605